

## インプラントとブリッジの比較

「ブリッジ」は残っている歯を土台にして、長くつながっている歯をかぶせる治療ですが、歯根の数の不足はそのまま放置されているため支えとなる歯には、過大な咬合力がかかってしまうことによる破折や動揺など長期間にわたる耐久性に問題が生じやすく、清掃性も悪化するため歯周病のリスクも増大しがちです。もしブリッジの土台とするために健全な歯を新たに削る必要があるとすると、支台歯（支える土台となる歯）の方向をそろえるために大きく削る必要があり、削られた歯の寿命を大きく縮めている可能性も、否定できません。



また、ブリッジでは、複数の歯を平行に削る必要があるため、もともとの歯の方向によっては、平行にそろえること自体が無理な治療となってしまう場合があります。実際に、支台歯（土台となる歯）の歯質が異常に薄くなって割れてしまったり、神経を抜かれてしまったりという場合が多く見受けられ、長期的に再治療が必要になることも多くあるのです。再治療のたびに削られて、歯質が弱く脆くなってしまうことを考えると、将来の抜歯される状況を回避するためにも、現在では、ブリッジは、できれば避けるのが賢明だと考えられています。



例えば、1歯だけの欠損の場合なら、インプラントなら1歯だけの治療で済みますが、ブリッジの場合にはその両隣の歯まで、治療の範囲を拡大してしまうことになります。また、歯に起こる歯周炎と同様に、インプラント周囲炎が起こるとインプラントがグラグラしてくる場合がありますが、そのような場合でも、インプラント治療なら、きちんとしたインプラントを埋入し直すことにより咬合を回復させることができ、インプラント治療では健全な歯を削ったりして、治療の範囲を拡大することは必要ありません。これらの理由により、自分の歯を長持ちさせようという機運の中での治療としては、インプラントの方が圧倒的に優れた、将来を見越した治療といえます。

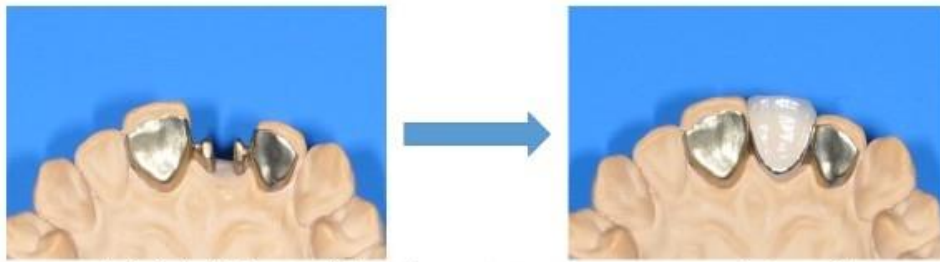
## 東京審美会のインプラント・サクセスストーリー

ブリッジを希望されていた患者さまに、歯ならびを改善し、咬合力による歯の崩壊と歯根の数の大切さをご理解いただいた症例 (術者 中田圭祐)

患者さまは、前歯の回復をご希望され東京審美会にはるばるご来院いただきました。



他院では、ブリッジによる治療を薦められましたが、大切な歯を大きく削らなければならないという説明に不安になり、歯をほとんど削らないで支台歯（支えとなる歯）に接着するだけで治療ができる接着ブリッジ、また、さらに削る量が少ないヒューマン・ブリッジのお取り扱いを当院がしていることをお知りになり、来院いただきました。



**【東京審美会でお取り扱いをしているヒューマン・ブリッジ】**

ふつうの接着ブリッジでは、歯の平行性を確保するための削合はしなければなりません。ヒューマン・ブリッジでは、各歯にそのまま接着した後に歯の部分を組み合わせて装着する構造で、削合はほとんど必要ありません。歯を削らないという点で、非常に優れています。

しかし、接着ブリッジやヒューマン・ブリッジでは、歯を削る量が少ないだけに、歯の方向を大きく修正することはできません。東京審美会の治療は、機能的な回復はもちろんですが、美しい高い審美性の回復も合わせて行っています。

そこで、歯の方向を修正し、また、歯のポジションも理想的な位置に移動させ、歯根が少なくなり弱くなっている前歯部分にインプラントにより歯根を増やして咬合に対する耐久力を回復させることにしました。



〈歯の隙間には、審美的な仮歯を入れて、歯ならびを改善します〉



〈上顎にあわせて、下顎も矯正します〉

東京審美会では、上顎と下顎の噛み合わせを重視しています。  
だんだんと、歯の方向が改善されてきました。

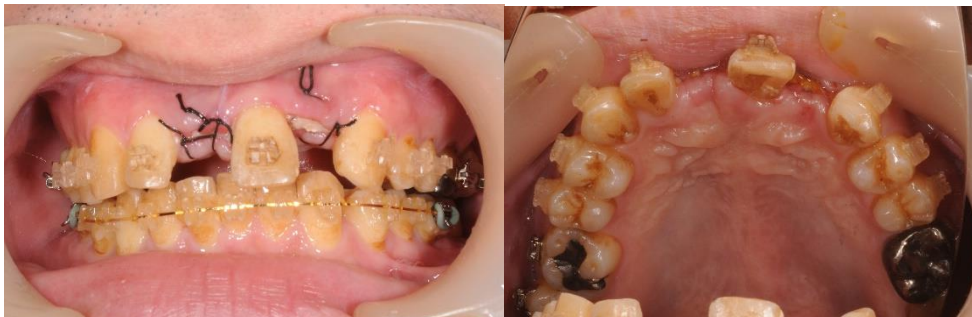


〈インプラントの埋入に備えて、スペースの配分を調節します〉



〈歯の前後的な位置も患者さんと相談して決めました〉

理想的な唇の位置と、下顎の歯からの突き上げを精査し、これから埋入するインプラントの位置、方向を決定して、それに合わせて歯を矯正移動させます。



〈出来上がった空際に、インプラントを埋入します〉

骨幅が狭かったため、唇側に骨を造骨してのインプラント埋入を行い、再生医療により患者さまご自身の血液から作製した膜で覆い、歯肉の回復を促しています。



〈きれいな歯ならびになりました！〉

隣の歯もきれいにならべることができ、また、インプラントによるしっかりとした噛み合わせができました。今では、すっかりとご自分の歯そのものですとても大切に、大事に使っていただいています。

「長年、前歯のことで悩んできましたが、東京審美会でやっと理想の解決法が見つかりました。本当にありがとうございました！」(患者さまのお言葉)

東京審美会のインプラント1本1本が、大切に送り出された心のこもった大切な歯です。患者さまの笑顔と素晴らしい今後の人生に、歯科にける情熱と誇り、そして喜びを感じさせられた大切な患者さまです。

東京審美会では、インプラント治療のための矯正治療は、大変にお得な包括治療としてお受けいただくことができます。どうぞ、東京審美会にご相談ください。

## なぜ、ブリッジではなくインプラント治療なのか？①

「入れ歯」や「ブリッジ」による治療は外科的な手術が必要ない分、簡易な処置で安心できる治療であると思われがちですが、長期的に、歯根が不足している状態のまま大きな咬合力を受けていることになり、**過大な力による歯周病の悪化、残存歯の寿命を大きく縮めている**という、本質の解決に及んでいないところに大きな問題が潜んでいます。



歯周病では、歯周病菌による炎症が骨の吸収の原因とされますが、歯への過大な力のかかり過ぎが症状の悪化を加速させています。最近では歯周病と全ての生活習慣病と深い関連があり、歯周病治療により高血糖、高血圧などが改善できる事もはっきりしてきました。



インプラント治療により、噛む力が回復すると、噛み応えのある『食』が楽しめるだけではありません。噛む力の回復により、身体能力、瞬発力や記憶力もアップすることが科学的に証明されています。個々の歯の咬合力の負担が軽減されることにより、歯の揺さぶりが防止され、残りの歯の寿命を大きく伸ばすことにもつながっています。

統計による健康状態を比較したデータでは、高齢の方で歯が19本以下の方は、20本以上残っている方に比べて、身体能力の低下以外でも要介護のリスクを高める体重減少や痩せの状態（1.47倍）になりやすい（浜松医科大学 健康社会医学講座）ことや、歯を失ったことによる胃腸障害をはじめ、柔らかい偏った食事による栄養障害、他の病気を誘発する基礎疾患の悪化、噛む刺激が少なくなることによる認知症をはじめとする脳機能の低下、寝たきりとなってしまう転倒の危険性が高まるなどの関連が明らかになっています。

## ☞インプラント豆知識

山梨県高齢者における歯の健康と医療費に関する実態調査（2007年）によると

高齢の方で歯が19本以下の方は、20本以上残っている方に比べて、

糖尿病 1.50 倍

高血圧疾患 1.49 倍

心筋梗塞・狭心症 1.71 倍

脳梗塞 1.59 倍

認知症 1.7 倍

転倒 2.5 倍 神奈川歯科大教授（社会歯科学）（毎日新聞 2016年2月6日） 東京朝刊

となっていることがわかっています。

健康は、まず食生活から。

東京審美会は美味しく食べて健康！を1人でも多くの方にお届けしたいと、日夜、研鑽を積み重ねています。

## なぜ、ブリッジではなくインプラント治療なのか？②

歯は「強い咬合力」を受け止めていますが、過大な力を繰り返し受けていると骨が緩み、歯が揺れてきます。もし、歯を失ったまま放置されると、「咬合力の受け手」が少ない状態で

残った歯の 1 本 1 本に加わる咬合力は歯に耐えられる限界を超えるようになり、歯の揺れが大きくなってきます。これを咬合性外傷といいます。こうして知らず知らずのうちに、歯の崩壊が加速していくのです。

歯を失ったときの解決方法として残っている歯を削って長いブリッジを入れるという治療がありますが、最も重大な問題である『咬合力の受け手』である歯根が少なくなったことに対してまったく解決になっていません。

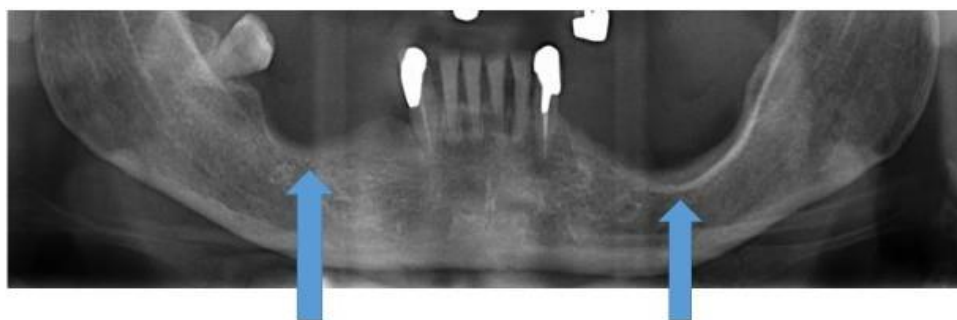


むしろ、少ない歯根の数で大きな力を支えることになり、耐えられなくなった長いブリッジごと歯を失うことにつながってしまう場合があります。また、咬めない部分入れ歯で強く咬もうとすると沈み込みによる強い回転力を生じてしまうため入れ歯を留めている歯を揺さぶり、揺さぶられた歯の寿命を大きく短くしてしまっています。



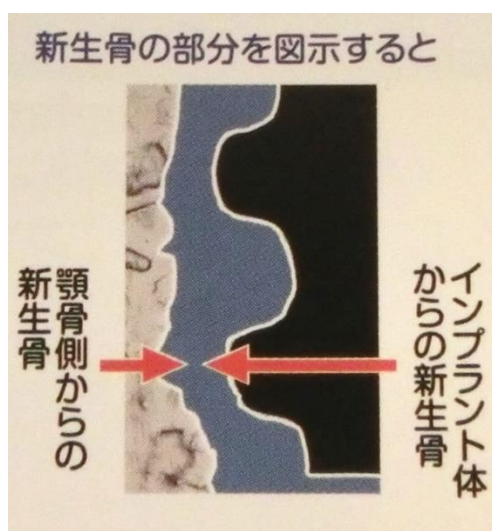
噛む力が加わると・・・  
入れ歯は歯肉に沈み込み  
入れ歯を留めている歯を揺さぶります！

また、もし歯を失って、歯根による顎骨への力の働きかけがないままにしておくと、顎の骨に力を加えないことによる廃用性萎縮が起こり、**骨自体も吸収されて弱くなっていきます**。これは、ブリッジや入れ歯による治療でも、顎の骨に力が加わらない部位ができてしまうために同じことが起こっています。



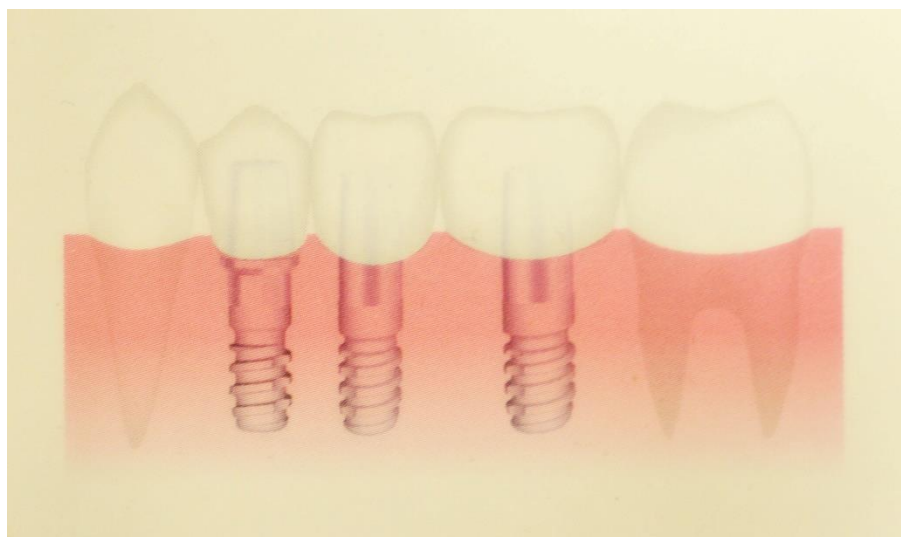
**歯がないところでは…  
きれいな円弧を描いて骨は消えていくのです**

インプラントは骨に力を加えますから、骨の廃用性萎縮を予防します。東京審美会では、骨が失われる前にインプラント治療を行い、顎骨を守る治療をお勧めしています。歯を失っても、インプラントを植立していれば、インプラントが顎骨に力を加えるため、**骨を喪失しないで済む**のです。最近では、インプラントの種類によっては、インプラントにより顎骨が増えるということもわかってきています。



〈インプラントにより顎骨が新生される〉

インプラントを骨に埋入することができさえすれば、その上に噛むための歯をつくることもできるだけでなく、はめ込むリングや磁石により、入れ歯をしっかりと固定することもできるのです。



ぜひ みなさまにも、インプラントを含めた新しい先進医療の素晴らしさを知っていただきたいと思っています。